

関連学会印象記

第3回循環薬理研究会

安孫子 保

本会は滋賀医科大学薬理学戸田昇教授の発案によって、平成3年に発足した研究会である。薬理学を研究している仲間のうち、循環器に関係した研究をしている仲間が集まって研究会をしたかどうかというのが基本的な発想であった。戸田教授を中心にした10数名の世話人がこの会の運営にあたっている。

この会は独創的な循環薬理の研究業績を発表し、また、啓蒙的、総説的な業績を紹介して活発な討論を行い、情報の交換と親睦を深め、これらを通して循環薬理研究の活性化と向上をはかることを目的としている。本研究会は毎年一回とし、場所は関西と関東で交互に行うということにしている。

第1回は平成3年11月京都で行われ、戸田教授が会長をされた。この時は世話人がそれぞれ総説を発表するという企画であった。第2回は平成4年11月に大宮で安孫子が会長となって行われた。今回、第3回研究会が平成5年12月に京都で行われ、北大医学部薬理学の斉藤教授が会長をされた。この時には特別講演として、滋賀医大薬理学戸田昇教授による「血管におけるNOの産生と機能的役割」、北大医学部循環器内科の北畠顕教授によ

る「臨床医から見た望ましい循環器治療薬」が行われた。一般口演は24題あり、アンギオテンシン、血小板、血管内皮、平滑筋、心筋、抗不整脈薬、エンドセリン、NO合成酵素、高血圧、カルシウム、心不全モデル、Na/H交換系、虚血心、グリブライド、ノルエエピネフリン、ヒドロキシラジカル、カルシウム拮抗薬、脳虚血などの興味ある独創性の高い発表があり、続いて非常に活発な討論が行われた。循環薬理の専門家が集まって発表と討論を行うわけであるから、かなりレベルの高い循環薬理の研究会となった。残念ながら、麻酔薬の循環薬理に関する発表はまだなかったようである。参加者には医学部と薬学部の循環薬理の研究者の他に、製薬会社の研究所の研究者の方がかなりおられた。参加するだけでも大変勉強になる会である。

次回の第4回循環薬理研究会は、平成6年12月8日(木)東京品川のコクヨホールで山梨医科大学薬理学橋本敬太郎教授が会長をされて行われる予定である。詳しくは、山梨医科大学薬理学の橋本教授に連絡をして頂きたい。